

オオハキリバチ

平成21年6月24日に市民から「数匹の大きいハチが穴から出入りしている。駆除してほしい。」との相談を保健所が受けました。京都市が駆除を行っているハチの種類かどうかを判断するために電話で色々聞き取りをされました。ところが、種類を特定するには至りません。そこで、保健所と衛生公害研究所で合同の現場調査を行うことになりました。現場の建物には、相談内容のとおり、穴があり、その周辺に数匹のハチが飛んでいます。穴から出入りするハチと言えば、ミツバチ類やスズメバチ類を連想させますが、数匹のハチは、明らかにこれらの種類とは異なっています。

現場の状況

相談のあった建物は、倉庫として使用されていました。その倉庫のコンクリートの外壁に二つの穴が開いていました。その周辺に数匹のハチが飛んでいます。しばらく観察していましたが、穴の中に入っていく行動は、見られません。種類を確認するために、飛行しているハチを捕虫網で3匹採集しました。このときも襲ってくるような行動は、ありません。相談者に「人を襲うような行動を取りませんので安全です。」と説明しました。ところが、襲って来ないではなく、襲えないというのが事実でした。現場で採集したハチを衛生動物部門に持ち帰り、顕微鏡で観察したところすべて雄の個体でした。雄は、人を襲う針がありません。

種類

採集した個体は、胸部や腹部の第1節にくすんだ黄色の刷毛(はけ)のような毛が密生していること、画像では分かりにくいですが、腹部の第2節の外側には白色の短い毛があること、表皮に多数のくぼみがあることなどの特徴からオオハキリバチと判断しました。

ハキリバチ

ハキリバチの仲間の中には、葉を丸く、あるいは楕(だ)円に切り取り、巣の材料とする種類がいることからハキリバチ(葉切蜂)と呼ばれます。「衛生動物だより第23号」でスズメバチの巣の穴を利用したハキリバチの巣を紹介しました。オオハキリバチは、今回の相談事例で分かるように筒状の空間に集めてきた泥や樹脂で巣を作ります。雌は、巣に集めてきた花粉をため、そこに一個の卵を産み付け、泥や樹脂で部屋を区画します。こうした動作を繰り返し、何匹かの幼虫を育てます。1匹の雌のみによる巣作りです。

ハチの雄の役割

ところが、今回の相談事例では、少なくとも3匹の雄成虫を採集しました。一見、集団で生活しているように見えますが、ハチの雄は、巣作りや幼虫を育てることに参加しません。雄の最も大切な役割は、雌と交尾することです。交尾は、次の世代を作るのに欠かせない行動です。全くの推測ですが、今回の事例の雄は、羽化してくる雌と交尾をするチャンスをうかがっていたのかもしれない。

雌の個体

平成21年8月5日に別の保健所に「玄関のガラス戸付近に毎日1匹のハチが来る。屋根裏に巣があるかもしれない。刺されるのではないか。」との市民からの相談がありました。さらに、部屋の中に侵入してきたハチを殺虫剤で駆除し、保健所に持参されました。種類は、オオハキリバチの雌でした。巣は、ガラス戸の周辺にあるのですが、1匹しかいない巣の主(あるじ)は、既に駆除されてしまったので、二度とガラス戸付近に飛来してくることはありません。

